

原ゆうじ 市政報告 VOL.31

TEL&FAX047(367)6754 メールアドレス yuji.hara88@gmail.com

ブログ(原ゆうじの日記)も好評配信中！ 公式 HP:hara88.mobi



(原ゆうじのプロフィール)
1965年松戸生まれ 上本郷小、六中、立教高校、立教大学理学部化学科卒。長瀬産業(商社)勤務を経て家業であるベーカリー店を継ぐ
平成22年、市議初当選(現在1期目) 妻、4子(3男1女)の6人家族

松戸市議会議員 原ゆうじの市政最新レポート！

千駄堀新市立病院建設費、可決！ 約194億円で清水建設に決定！

市立病院建設問題、一応の決着へ！ 平成29年12月開院予定！

昨年末、入札が不調となり暗礁に乗り上げてしまった千駄堀新病院建設ですが、その後、全国初？である上限価格を設けない見積もり方式による事業者募集を行い、結果、三社が応募。その審査が9月15日に行われ、最優先交渉者に清水建設(株)、次点の優先交渉者に竹中工務店を中心とした企業体が選定されていました。その後、まず、市と清水建設とで最終的な価格を含めた調整が行われ、ようやく気になる価格(約194億円)が、10月16日の病院建設の委員会で、詳細に報告がなされました。そして、なんとそのわずか4日後の10月20日、臨時議会が招集され、千駄堀新市立病院の建設予算が審議され、約57億円増額の補正予算が可決。実施設計と建設費あわせて総額約194億円の予算が正式に決定となりました。長年の市の懸案事項であった市立病院建設問題ですが、大きな大きな前進となりました。

この決定で、11月からすぐに実施設計を開始、一年後の27年11月に着工、予定では29年8月に完成、3か月の準備期間を経て29年12月に開院予定となっています。

大丈夫か？病院経営&看護師確保

千駄堀新病院建設が決定されたことは喜ばしい事ですが、心配も実はあります。それは病院経営と看護師確保の問題です。

まず、病院経営についてですが、25年度決算では、病院の売上げである医業収入は約127億円となっています。

しかし、病院経営は税金投入なしでは成り立たず、23年度16.1億円、24年度16.6億円の繰り入れをしていました。が、25年度はなんと約25.2億円もの税金投入となってしまいました。

一番の原因は、入院患者数の減少です。新病院計画では、稼働病床600床、入院稼働率90%を前提としています。

しかし、市内民間病院の建設&増床が相次ぐ中、果たしてこの数字が本当に達成できるのかは懐疑的にならざるを得ません。

1日当たり平均入院患者数&稼働率(対570床)の推移

	22年度	23年度	24年度	25年度
入院患者数	468.0人	466.8人	436.1人	404.7人
病床稼働率	82.1%	81.9%	76.5%	71.0%

もう一つの心配は看護師確保の問題です。現在市立病院は、看護師不足により1病棟(35床)を休床しています。新病院計画では病床600床に対し7:1の看護体制となりますので、必要となる看護師数を597人としていますが、26年3月末時点で465人です。民間病院が看護師確保に躍起の中、あと132人もの看護師確保が開院までに可能なのか、この点にも疑問を持たざるを得ません。

不安な1号館耐震性不足！苦渋の決断で賛成へ！

こうした懸念から、本音では500床程度に規模の縮小を図り、建設費の縮減をする必要があるとは正直思っています。しかし、規模の縮小を目指すとなれば①基本計画からやり直しが必要となり、最低2年の期間が必要となります。現上本郷病院の1号館は包帯工法での補強はしたものの耐震性には不安があります。この2年以内に大地震が来ないとは言いきれません。そして、この市立病院問題は20年近く論議され未だに決着していません。②市民の方からは「早く決着し、松戸市が抱える他の問題に取り組んでほしい」との声も多く聞きます。停滞した今の松戸を見ればもっともな話とも思います。また、③千駄堀は地理的に市の中心です。「市立病院は救急車の搬送時間等を考えれば市の中心に置くべきだ」との考えは今でも変わりません。以上、主に3つの理由から苦渋の決断で今回、付帯決議付で、賛成することにしました。

【病院事業会計補正予算 に関する付帯決議】 (前文は省略) 記

- 1:遅滞なくスケジュール通りに開院させること
- 2:医師・看護師を含む職員確保に努め、開院後3年以内に病床数600床、病床稼働率90%を必ず満たすこと
- 3:大幅な増額予算となったことを鑑み、少しでも圧縮するために新たな財源確保策を講じ、これ以上の財政負担を抑えること
- 4:今後の2病院の在り方を十分に検討し、一般会計に頼ることがない病院経営をはかること

千葉県松戸市議会

どうなる？上本郷の現市立病院！

次は、上本郷、高塚2病院、今後の在り方を審議へ！

現在、松戸市には上本郷（613床）、そして高塚新田（198床）と2つの市立病院がありますが、この2つの病院の今後の在り方については、千駄堀新病院予算可決後に審議するとしていましたので、昨日の決定により、いよいよこれから審議されることになるところかと思えます。

（これまでの経緯） 22年9月発足の委員会（市立病院建替計画検討委員会）では、「市立2病院の建替えが必要」との答申が出されています。この答申から、市は、構想8案と題して2病院の組み合わせ8案を議会に提案、その中で市長公約でもあった上本郷1号館建て替えを軸とした「上本郷、高塚新田案」を市推奨案としました。しかし、病院関係者、議会の理解が得られないとの理由で、23年9月に市長は、**原ゆうじの反対をよそに断念**。代わりに「千駄堀、上本郷案」を推奨案としました。しかし議会では、一度に2病院の建替え審議では難航するため、先に千駄堀病院についての審議を優先することとし、上本郷、高塚新田の病院については、千駄堀の結果が出てから審議されることとなりました。

いよいよ審議が始まる上本郷、高塚新田病院の今後について

どうやらこちらの審議も難航しそうです。それは現高塚新田にある病院の経営がこちらにも思わしくないからです。

25年度、高塚新田の病院の売上である医業収入は約15.4億円、対して医業費用は約22億円となっていてそのうち人件費は15.2億円です。

なんと**人件費比率は98%**です。建替えだけでなく「経営」についての論議もしなくてははいけないと思えます。

【原ゆうじの考え；上本郷病院の活用を！】

皆様ご存知のように、上本郷の病院は1号館のみが昭和42年築で耐震性に問題があります。他の2号館から5号館も一部老朽化は進んでいますが、こと耐震性には問題がありません。

以前、市からは、上本郷の場合は、建て替えでなく1号館を解体し残りの2から5号館を改修して使用する案が示されています。

対して、高塚新田の場合は、国立病院の払い下げで購入したこともあり、大部分の建物に耐震性がありません。仮に今後活用するとなれば、建替えが必要となると思われます。となれば更に多額の費用が必要となるはずで

また、現在の高塚新田病院は、現上本郷病院の後方支援病院となっています。上本郷の病院（急性期病院）で手術をしたのち、リハビリ、療養等を高塚新田で行っています。こうした病院同士の連携は重要です。

であれば、位置的に千駄堀に近い上本郷の病院を安価に残すことが良いと考えています。しかし、高塚新田についても医療過疎地域とするわけにはいきません。場合によっては両病院とも民営化まで含め検討する必要があるのではと思っています。

千駄堀新病院MAP



前病院移転候補地：旧紙敷 66 街区、売却へ！

千駄堀決定で、気になるのが、川井前市長時代、市立病院移転候補地に土地開発公社で購入した旧紙敷66街区（11,000㎡、東松戸駅徒歩3分）の土地についてです。この土地についてはすでに、2段階による入札が行われ（株）長谷工コーポレーションを中心とする企業体に、25億2千万円で落札されています。

平成21年3月の購入金額は約22億円、これまでの借入金利で約1億8千万円を加えても、結果、プラスとなり損は出さずに済みました。一安心です。今後、12月議会で正式に承認され売却される見込みです。

～原ゆうじ市政報告会のお知らせ～ 問合せTEL 368-1705

11月1日（土）PM7時～、上本郷第一会館にて

市立病院問題をはじめ様々、原ゆうじが松戸への想いを熱く語ります。

予約は不要！入場無料です！ 皆様のお越しをお待ちしています。